

鳥取県県土整備部土木工事監督基準 新旧対照表

改 正 後	改 正 前
<p>第1条～第6条全般 <u>「請負者」を「受注者」に改める。</u></p> <p>（監督業務の分類） 第4条 監督業務は、総括監督業務、主任監督業務、一般監督業務及び準監督業務に分類するものとし、これらの業務の内容は、それぞれ次の各号に掲げるとおりとする。 (1) ～ (3) ※略 (4) 準監督業務 一般監督業務のうち、<u>第6条</u>の表中「準監督員」欄の該当する業務を行う。</p> <p>（監督の実施） 第6条 監督員等は、以下の表の各項目について技術的に十分検討の上監督を実施するものとする。 なお、関連図書及び条項の欄の「契」は、契約書を示し、「共」は、土木工事共通仕様書を示す。</p> <p>附 則 この基準は、平成22年3月19日から施行する。</p> <p>附 則 この基準は、平成23年4月1日から施行する。</p> <p><u>附 則</u> <u>この基準は、平成24年2月1日から施行する。</u></p>	<p>第1条～第6条全般</p> <p>（監督業務の分類） 第4条 監督業務は、総括監督業務、主任監督業務、一般監督業務及び準監督業務に分類するものとし、これらの業務の内容は、それぞれ次の各号に掲げるとおりとする。 (1) ～ (3) ※略 (4) 準監督業務 一般監督業務のうち、<u>第5条</u>の表中「準監督員」欄の該当する業務を行う。</p> <p>（監督の実施） 第6条 監督員は、以下の表の各項目について技術的に十分検討の上監督を実施するものとする。 なお、関連図書及び条項の欄の「契」は、契約書を示し、「共」は、土木工事共通仕様書を示す。</p> <p>附 則 この基準は、平成22年3月19日から施行する。</p> <p>附 則 この基準は、平成23年4月1日から施行する。</p>

改正後

改正前

別表1

段階確認一覧

1/4

No	種別	細別	確認時期	確認項目	確認の頻度
1	工事測量		着工前、及び着工後に設置したものはその都度	工事前測量標、工事前用照点、測量標、用地境界、中心線等	1回/1工事
2	用地境界、測量標		工事完成時	用地境界、測量標、工事前用照点、中心線等	1回/1工事(用地境界の場合10%、最低2箇所)
3	指定仮設工		設置完了時	使用材料、高さ、幅、長さ、深さ等	1回/1工事
4	共通の工種	道路改良	施工完了時	幅 W ₁ 、W ₂ 、W ₃ 中心線、基準高	一般:10%(延長200m以下の場合は2箇所)、重点:30%
		護岸工 流路工	施工完了時	幅 W ₁ 、W ₂	一般:10%(延長200m以下の場合は2箇所) 重点:30%
5	掘削工 河川土工、海岸土工 砂防土工、道路土工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質変化位置	1回/土(岩)質の変化毎
6	道路土工(路床盛土工)		ブルローリング実施時	ブルローリング実施状況	1回/1工事
7	舗装工(下層路盤)		ブルローリング実施時	ブルローリング実施状況	1回/1工事
8	表層安定処理工	路床安定処理 表層混合処理	処理完了時	使用材料、基準高、幅、延長、施工厚さ	一般:1回/1工事 重点:1回/100m
		置換	掘削完了時	使用材料、幅、延長、置換厚さ、支持地盤	
		サンドマット	処理完了時	使用材料、幅、延長、施工厚さ	
9	パーチルトレン工	サンドレン	施工時	使用材料、打込長さ	一般:1回/200本 重点:1回/100本
		袋詰式サンドレン パーバードレン	施工完了時	位置・間隔、杭径	ただし、1回以上/1構造物とする。
10	締固め改良工	サンドコンパクションパイル	施工時	使用材料、打込長さ	一般:1回/200本 重点:1回/100本
			施工完了時	施工位置、杭径	ただし、1回以上/1構造物とする。
11	固結工	粉体噴射攪拌 高圧噴射攪拌 スラリー攪拌 生石灰パイル	施工時	使用材料、深度	一般:1回/200本 重点:1回/100本
			施工完了時	基準高、位置・間隔、杭径	ただし、1回以上/1構造物とする。
		薬液注入	施工時	使用材料、注入深度、注入量、注入圧力等	一般:1回/20本 重点:1回/10本 ただし、1回以上/1構造物とする。

別表1

段階確認一覧

1/3

種別	細別	確認時期	確認項目	確認の頻度
出来形測量結果		完成時	中心線、横断、測量標(基準点、仮BM)、用地境界等	一般:10% (延長200m以下の場合2箇所) 重点:30%
着工前測量結果		着工前	測量標(基準点、仮BM)、工事前用照点、用地境界、中心線等	1回/1工事
指定仮設		設置完了時	使用材料、高さ、幅、長さ、深さ等	1回/1工事
共通の工種	道路改良	施工時	幅 W ₁ 、W ₂ 、W ₃	一般:10%(延長200m以下の場合は2箇所) 重点:30%
	護岸工 流路工	施工時	幅 W ₁ 、W ₂	一般:10% (延長200m以下の場合2箇所) 重点:30%
掘削工(切土工) 河川、道路、海岸、砂防、公園		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化毎
地盤改良	置換工	掘削完了時	使用材料、幅、延長、置換厚さ、支持地盤力	1回/1構造物
道路土工(路床盛土工) 舗装工(下層路盤)		ブルローリング実施時	ブルローリング実施状況	1回/1工事
表層安定処理工	表層混合処理 路床安定処理	処理完了時	使用材料、基準高、幅、延長、施工厚さ	一般:1回/1工事 重点:1回/120m
	置換	掘削完了時	使用材料、幅、延長、置換厚さ、支持地盤	
	サンドマット	処理完了時	使用材料、幅、延長、施工厚さ	
パーチルトレン工	サンドレン	施工時	使用材料、打込長さ	一般:1回/200本 重点:1回/100本
	袋詰式サンドレン パーバードレン	施工完了時	基準高、杭径	
締固め改良工	サンドコンパクションパイル	施工時	使用材料、打込長さ	一般:1回/200本 重点:1回/100本
		施工完了時	位置・間隔、杭径	
固結工	粉体噴射攪拌 高圧噴射攪拌 スラリー攪拌 生石灰パイル	施工時	使用材料、深度	一般:1回/200本 重点:1回/100本
		施工完了時	基準高、位置・間隔、杭径	
	薬液注入	施工時	使用材料、深度、注入量	一般:1回/20本 重点:1回/10本
矢板工(仮設を除く)	鋼矢板	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	一般:1回/150枚 重点:1回/100枚
		打込完了時	基準高、変位	
既製杭工	既製コンクリート杭 鋼管杭 H鋼杭	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	一般:1回/10本 重点:1回/5本
		打込完了時(打込杭)	基準高、偏心量	
		掘削完了時(中堀杭)	掘削長さ、杭の先端土質	
		施工完了時(中堀杭)	基準高、偏心量	
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	

改正後

改正前

2/4

2/3

No	種別	細別	確認時期	確認項目	確認の頻度
12	矢板工 (任意仮設を除く)	鋼矢板 軽量鋼矢板 コンクリート矢板 広幅鋼矢板 可とう鋼矢板 鋼管矢板	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板+ 一般：1回/150枚 重点：1回/100枚
			打込完了時	基準高、根入長、変位	
			打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板+ 一般：1回/75本 重点：1回/50本
			打込完了時	基準高、根入長、変位	
13	既設杭工	既製コンクリート杭 銅管杭 H鋼杭	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	試験杭+ 一般：1回/10本 重点：1回/5本 ただし、1回以上/ 1構造物とする。
			打込完了時(打込杭)	基準高、根入長、偏心量、傾斜	
			掘削完了時(中堀杭)	掘削長さ、杭の先端土質	
			施工完了時(中堀杭)	基準高、根入長、偏心量、傾斜	
			杭頭処理完了時	杭頭処理状況	一般：1回/10本 重点：1回/5本 ただし、1回以上/ 1構造物とする。
14	場所打杭工	リバス杭 オルケシング杭 アースリキ杭 大口径杭	掘削完了時	掘削長さ、支持地盤	試験杭+ 一般：1回/10本 重点：1回/5本 ただし、1回以上/ 1構造物とする。
			鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	
			施工完了時	基準高、根入長、偏心量、傾斜、杭径	
			杭頭処理完了時	杭頭処理状況	一般：1回/10本 重点：1回/5本 ただし、1回以上/ 1構造物とする。
15	深礎工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質変化位置	1回/土(岩)質の変化毎
			掘削完了時	掘削長さ、支持地盤	一般：1回/3本 重点：全数 ただし、1回以上/ 1構造物とする。
			鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	1回/1本
			施工完了時	基準高、根入長、偏心量、傾斜、杭径	一般：1回/3本 重点：全数
			グラウト注入時	使用材料、使用量	一般：1回/1以上/ 1構造物とする。
			刃口金物掘付完了時	使用材料、施工位置	1回/1構造物
16	オフショア基礎工 ニューマチック基礎工		本体設置前(オフショア)	支持層	
			掘削完了時(ニューマチック)		
			土(岩)の変化した時	土(岩)質変化位置	1回/土(岩)質の変化毎
			鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	1回/1ロット

種別	細別	確認時期	確認項目	確認の頻度
場所打杭工	リバス杭 オルケシング杭 アースリキ杭 大口径杭	掘削完了時	掘削長さ、支持地盤	一般：1回/10本 重点：1回/5本
		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	
		施工完了時	基準高、偏心量、杭径	
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	
深礎工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質変化位置	1回/土(岩)質の変化毎
		掘削完了時	長さ、支持地盤	1回/3本 重点：全数
		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	1回/1本
		施工完了時	基準高、偏心量、杭径	一般：1回/3本 重点：全数
築堤・護岸工	砂防堰堤	法線設置完了時	法線設置状況	1回/1法線
		打継目処理完了時	打継目処理状況	前回工事とのコンクリート打継目+1回以上/ 1工事
護岸工	法覆工(覆土施工がある場合) 基礎工、根固工	覆土前	設計図書との対比(不可視部分の出来形)	1回/1工事
		設置完了時	設計図書との対比(不可視部分の出来形)	1回/1工事
重要構造物 (別紙2のとおり)		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化毎
		床掘掘削完了時	支持地盤(直接基礎)	1回/1構造物
		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：30%/1ロット 重点：60%/1ロット
		築立完了時	設計図書との対比	1回/1構造物
躯体工 橋台、橋脚		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化毎
		床掘掘削完了時	支持地盤(直接基礎)	1回/1構造物
		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：30%/1ロット 重点：60%/1ロット
		築立完了時	設計図書との対比	1回/1構造物
アンカー工		沓座の位置決定時	沓座の位置	1回/1構造物
		削孔時	土(岩)質変化位置、削孔角度、位置	一般：1回/10本 重点：1回/5本
		削孔完了時	削孔長さ、削孔径	一般：1回/10本 重点：1回/5本
		アンカー一体組立時	使用材料	一般：1回/10本 重点：1回/5本
		グラウト注入時	使用材料、配合、加圧量、注入量	一般：1回/10本 重点：1回/5本
		緊張時	緊張力、定着力	一般：1回/10本 重点：1回/5本
床版工		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	一般：30%/1構造物 重点：60%/1構造物
鋼橋上部工 桁製作工 横断歩道橋製作工		仮組立完了時(仮組立が省略となる場合を除く)	キャンパー、寸法等	1回/1構造物
ポストテンション桁製作工 プレキャストメント主桁組立工 プレキャスト桁製作工 PC和スラブ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押出し箱桁製作工 床版・横組		プレストレス導入完了時	設計図書との対比	一般：5%/総ケーブル数 重要：10%/総ケーブル数
		プレストレス導入完了時	設計図書との対比	一般：10%/総ケーブル数 重要：20%/総ケーブル数
		PC鋼線・鉄筋組立完了時(工場製作を除く)	使用材料、設計図書との対比	一般：30%/1構造物 重点：60%/1構造物

改正後

改正前

3/4

3/3

No	種別	細別	確認時期	確認項目	確認の頻度	
17	鋼管矢板基礎工		打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否、支持力	試験矢板+ 一般：1回/10本 重点：1回/5本	
			打込完了時	基準高、根入長、偏心量	一般：1回/10本 重点：1回/5本	
			杭頭処理完了時	杭頭処理状況	一般：1回/10本 重点：1回/5本	
18	置換工（別紙2の重要構造物の場合）		掘削完了時	支持地盤、使用材料、幅、延長、置換厚さ	1回/1構造物	
19	築堤・護岸工（新たな法線位置に設置する場合）		法線設置完了時	法線設置状況	1回/1法線	
20	護岸 河川 海岸 砂防（流路）	法覆護岸工のうち覆土施工がある場合	覆土前	設計図書との対比（不可視部分の出来形）	1回/1工事	
		護岸基礎工、根固工	設置完了時	設計図書との対比（不可視部分の出来形）	1回/1工事	
21	重要構造物（別紙2のうち橋梁上部工、トンネル、ダム工を除く。）		土（岩）質の変化した時	土（岩）質変化位置	1回/土（岩）質の変化毎	
			床掘削完了時	支持地盤（直接基礎）	1回/1構造物	
			鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	1回/1ロット	
			埋戻し前及び設置完了時	設計図書との対比（不可視部分の出来形を含む）	1回/1構造物	
			橋台、橋脚の場合は右記を追加。	沓座の位置決定時	沓座の位置	1回/1構造物
			砂防堰堤の場合は右記を追加。	法線設置完了時	法線設置状況	1回/1法線
		打継目処理完了時	打継目処理状況	前回工事とのコンクリート打継目+1回以上/1工事		
22	床版工		鉄筋組立完了時	使用材料、設計図書との対比	1回/1構造物	
23	鋼橋上部工 桁製作工 横断歩道橋製作工		仮組立完了時（仮組立が省略となる場合を除く）	仮組立精度	1回/1構造物	
24	コンクリート上部工 ポストテンション桁製作工 プレキャストセグメント主桁組立工 PC和-スラブ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押し箱桁製作工 床版・横組工		プレスト導入時 横締作業導入時	設計図書との対比	一般：5%/総ケーブル数 重要：10%/総ケーブル数	
			プレスト導入時 縦締作業導入時	設計図書との対比	一般：10%/総ケーブル数 重要：20%/総ケーブル数	
		PC鋼線・鉄筋組立完了時（工場製作を除く）	使用材料、設計図書との対比	一般：30%/1構造物 重点：60%/1構造物		

種別	細別	確認時期	確認項目	確認の頻度
トンネル支保工		支保工完了時（支保工変化毎）	吹き付けコンクリート厚	1回/支保工変化毎
ロックボルト工		支保工完了時（支保工変化毎）	ロックボルト打込本数及び長さ	1回/支保工変化毎
トンネル覆工		施工時（構造の変化時）	設計図書との対比	1回/構造の変化毎
トンネルパート工		鉄筋組立完了時	設計図書との対比	1回/構造の変化毎
マット工		施工時	使用材料	1回/1構造物
ケーソン工		鉄筋組立完了時	設計図書との対比	一般：30%/1構造物 重点：60%/1構造物
		曳航前	設計図書との対比	1回/1構造物
橋梁床版工	橋梁耐震補強（アンカボルト）	施工前 削孔後	既設構造物の配筋状況	1回/1構造物
		定着後	削孔長 定着長（超音波探傷器）	一般：30% 重点：60%
地下水位低下工		施工前	土質、地下水位、透水係数等	1回/1工事
光ケーブル配管工	配管工	施工前	使用材料	1回/1工事
		施工時	接続状況	1回/1工事
コンクリート路面補修工		施工時	注入材料使用量	1回/1工事
植栽維持工		現場搬入時	使用材料	1回/1工事
ダム工		各工事ごと別途定める	各工事ごと別途定める	
県土整備部自社施工対象工事適正実施要領の対象工事		各工事ごと別途定める	各工事ごと別途定める	
県土整備部自社施工対象工事適正実施要領の対象工事		各工事ごと別途定める	各工事ごと別途定める	

注）表中の「確認の程度」は、確認頻度の目安であり、実施にあたっては工事内容および施工状況等を勘案のうえ設定することとする。

なお、1ロットとは、橋台等の単体構造物はコンクリート打設毎、函渠等の連続構造物は施工単位（目地）毎とする。

また、一般とは一般監督工事であり重点監督以外の工事、重点とは重点監督工事であり対象工事は別紙1による。

重要構造物とは、構造計算を伴う橋梁などの構造物であり別紙2による。

改正後

改正前

4/4

No	種別	細別	確認時期	確認項目	確認の頻度
25	トンネル掘削工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質変化位置	1回/土(岩)質の変化毎
26	トンネル支保工		支保工完了時(支保工変更毎)	使用材料、吹付コンクリート厚、ロックボルト突出量、打込本数・間隔	1回/支保工変更毎
27	トンネル覆工		コンクリート打設前	巻立空間	一般：1回/構造の変化毎 重点：3打設毎又は1回/構造物の変化毎の頻度の多い方 1回/200m以上臨場により確認
			コンクリート打設後	出来形寸法	
28	トンネルインパート工		鉄筋組立完了時	設計図書との対比	1回/構造の変化毎
29	抑止アンカー工(グラウトアンカー)		削孔時	定着地盤	一般：1回/10本 重点：1回/5本
			削孔完了時	削孔深さ、せん孔方向	
			アンカー体組立時	使用材料	
			グラウト注入時	フロー値、加圧力	
30	橋梁耐震補強工	落橋防止装置工	削孔後	削孔長	一般：30% 重点：60%
			定着後	アンカーボルト定着長	
31	地下水位低下工	ウェル イント ディープウェル	施工前	土質、地下水位、透水係数、湧水量等	1回/1工事
32	光ケーブル配管工	配管工	施工前	使用材料	1回/1工事
			施工時	接続状況	1回/1工事
33	コンクリート舗装補修工		施工時	使用材料、使用量	1回/1工事
34	植栽維持工		現場搬入時	使用材料	1回/1工事
35	ダム工	各工事ごと別途定める		各工事ごと別途定める	
36	県土整備部自社施工対象工事適正実施要領の対象工事			左記実施要領による。	

注) 表中の「確認の程度」は、確認頻度の目安であり、実施にあたっては工事内容および施工状況等を勘案のうえ設定することとする。

なお、1ロットとは、橋台等の単体構造物はコンクリート打設毎、函渠等の連続構造物は施工単位(目地)毎とする。

また、一般とは一般監督工事であり重点監督以外の工事、重点とは重点監督工事であり対象工事(別紙1)による。

重要構造物とは、構造計算を伴う橋梁などの構造物であり別紙2による。

改正後

改正前

別表2

施工状況把握一覧

1/2

No	種別	細別	把握時期	把握項目	把握の頻度
1	オプンケージ基礎工 ニューマチックケージ基礎工 深礎工		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、 打設方法、天候、気温	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット
2	場所打杭工	リバース杭 オルケシング杭 アースドリル杭 大口径杭	コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、 打設方法、天候、気温	一般：1回/10本 重点：1回/5本
3	重要構造物 (別紙2のうち橋梁 上部工、トンネル、ダ ムを除く)		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、 打設方法、天候、気温	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット
4	床版工		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、 打設方法、天候、気温	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット
5	コンクリート上部工 ホーステンション桁製作工 プレキャストメント主桁 組立工 PC和スラブ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押出し箱桁製作工 床版・横組工		コンクリート打設時 (工場製作を除く)	品質規格、運搬時間、 打設方法、天候、気温	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット
6	トンネル工		施工時(支保工変 更毎)	施工状況	一般：1回/支保工 変更毎 重点：1回/支保工 変更毎。ただし、最 低10支保工毎。
7	盛土工 河川、砂防、海岸		敷均し・転圧時	使用材料、敷均し・締 固め状況	一般：1回/1工事 重点：2回/1工事
8	路体盛土工、路床盛土 工		敷均し・転圧時	使用材料、敷均し・締 固め状況	一般：1回/1工事 重点：2回/1工事
9	舗装工 橋面防水工 アスファルト舗装工 半たわみ性舗装工 排水性舗装工 透水性舗装工 ゲースタット舗装工 コンクリート舗装工 薄層カラー舗装工 ブロック舗装工 路上再生工		舗設時	使用材料、敷均し・締 固め状況、天候、気温、 舗設温度	一般：1回/1工事 重点：1回/3000m ²
10	現場塗装工		清掃・錆落とし施 工時 施工時	清掃・錆落とし状況 使用材料、天候、気温	1回/1工事 1回/1工事

別表2

施工状況把握一覧

1/1

種別	細別	把握時期	把握項目	把握の頻度
重要構造物 (別紙2のとおり)		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、 打設順序、天候、気温等	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット
床版工		コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、 打設順序、天候、気温等	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット
場所打杭工	リバース杭 オルケシング杭 アースドリル杭 大口径杭	コンクリート打設時	品質規格、運搬時間、 打設順序、天候、気温等	一般：1回/10本 重点：1回/5本
アンカー工		緊張時	グラウトの強度	一般：1回/10本 重点：1回/5本
ホーステンション桁製作工 プレキャストメント主桁組立 工 プレキャスト桁製作工 PC和スラブ製作工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押出し箱桁製作工 床版・横組		コンクリート打設時 (工場製作を除く)	品質規格、運搬時間、 打設順序、天候、気温等	一般：1回/1構造物 重点：1回/1ロット
トンネル工		施工時(支保工変化毎)	施工状況	1回/支保工変化毎
盛土工 河川、道路、海岸 砂防、公園		敷均し・転圧時	使用材料、 敷均し・締固め状況	一般：1回/1工事 重点：2~3回/1工事
路体盛土工 路床盛土工 舗装工	路盤、表層、 基層	舗設時	使用材料、 敷均し・締固め状況、 天候、気温、舗設温度 目地金物、鉄網の状況	一般：1回/1工事 重点：1回/3000m ²
塗装工		清掃・錆落とし施工時 施工時	清掃・錆落とし状況、 使用材料、使用量、 天候、気温	1回/1工事 1回/1工事
樹木・芝生管理工 植生工	施肥、薬剤散 布	施工時	使用材料、天候、気温	1回/1工事
路上再生路盤工		舗装時	使用材料、施工状況	一般：1回/1工事 重点：1回/3000 m ²
路上表層再生工		舗装時	添加材料、施工状況 敷均し・締固め状況、 天候、気温、舗設温度 目地金物、鉄網の状況	一般：1回/1工事 重点：1回/3000 m ²
ダム工		各工事ごと別途定める。	各工事ごと別途定める	
現場点検		工事着手前 工事中間時(工事進捗が 概ね50%程度の時点を目 安とする)	施工上支障となる事項や何 らかの問題点はないか現場 全般に渡り点検する。	2回以上/1工事 ただし、維持的工事 (伐開、河床掘削、舗 装補修、道路維持、植 樹管理等)など比較的 軽易な工事は除く。

注) 表中の「確認の程度」は、確認頻度の目安であり、実施にあたっては工事内容および施工状況等を勘案のうえ設定することとする。

なお、1ロットとは、橋台等の単体構造物はコンクリート打設毎、函渠等の連続構造物は施工単位(目地)毎とする。
また、一般とは一般監督工事であり重点監督以外の工事、重点とは重点監督工事であり対象工事は別紙1による。
重要構造物とは、構造計算を伴う橋梁などの構造物であり別紙2による。

改正後

改正前

2/2

No	種別	細別	把握時期	把握項目	把握の頻度
11	樹木・芝生管理工 植生工	施肥、薬剤散布	施工時	使用材料、天候、気温	1回/1工事
12	現場点検		工事着手前又は 工事着手直後 工事中間時(工事 進捗が概ね50% 程度の時点を目 安とする)	施工上支障となる事 項や何らかの問題点 はないか現場全般に 渡り点検する。	2回以上/1工事 ただし、維持的工事 (伐開、河床掘削、 舗装補修、道路維持、 植樹管理等)など比 較的軽易な工事は除 く。
13	ダム工	各工事ごと別途定める。		各工事ごと別途定める	

注) 表中の「把握の程度」は、把握頻度の目安であり、実施にあたっては工事内容および施工状況等を勘案のうえ設定することとする。

なお、1ロットとは、橋台等の単体構造物はコンクリート打設毎、函渠等の連続構造物は施工単位(目地)毎とする。

また、一般とは一般監督工事であり重点監督以外の工事、重点とは重点監督工事であり対象工事は別紙1による。

重要構造物とは、構造計算を伴う橋梁などの構造物であり別紙2による。

改正後	改正前
<p>別紙1</p> <p>重点監督工事</p> <p>主たる工種に施工条件が厳しい工事、第三者に対する影響のある工事、低入札工事、その他上記に類する工事については、確認の頻度を増やすこととし、工事の重要度に応じた監督とする。 なお、対象工事は下記のア～ウのとおりとし、発注時に定める。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>ア 施工条件が厳しい工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道又は現道上及び最大支間長50m以上の橋梁工事 ・掘削深さ7m以上の土留工及び締切工を有する工事 ・鉄道・道路等の重要構造物の近接工事 ・砂防ダム（堤体高15m以上） ・<u>場所打ちPC橋</u> ・<u>共同溝工事</u> ・軟弱地盤上での構造物 ・ハイピア（躯体高 30m以上） ・<u>トンネル（地山等級がD、Eのもの）</u> ・その他これらに類する工事 <p>イ 第三者に対する影響のある工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域等へ地盤変動等の影響が予測される掘削を伴う工事 ・一般交通に供する路面覆工・仮橋等を有する工事 ・河川堤防と同等の機能の仮締切を有する工事 ・その他これらに類する工事 <p>ウ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県県土整備部建設工事低入札価格調査制度対象工事 ・総合事務所長等が必要と認めた工事 ・防災幹線道路ネットワーク上の橋梁工事及び橋梁修繕工事 （防災幹線道路ネットワークは「鳥取県地域防災計画（鳥取県防災会議作成）」で指定されたルート） 	<p>別紙1</p> <p>重点監督工事</p> <p>主たる工種に新工法・新材料を採用した工事、施工条件が厳しい工事、第三者に対する影響のある工事、低入札工事、その他上記に類する工事については、確認の頻度を増やすこととし、工事の重要度に応じた監督とする。 なお、対象工事は下記のア～エのとおりとし、発注時に定める。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>ア <u>主たる工種に新工法・新材料を採用した工事</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>技術活用/パイロット工事</u> <p>イ 施工条件が厳しい工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道又は現道上及び最大支間長50m以上の橋梁工事 ・掘削深さ7m以上の土留工及び締切工を有する工事 ・鉄道・道路等の重要構造物の近接工事 ・砂防ダム（堤体高15m以上） <p>・軟弱地盤上での構造物</p> <p>・ハイピア（躯体高 30m以上）</p> <p>・その他これらに類する工事</p> <p>ウ 第三者に対する影響のある工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域等へ地盤変動等の影響が予測される掘削を伴う工事 ・一般交通に供する路面覆工・仮橋等を有する工事 ・河川堤防と同等の機能の仮締切を有する工事 ・その他これらに類する工事 <p>エ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県県土整備部建設工事低入札価格調査制度対象工事 ・総合事務所長等が必要と認めた工事 ・防災幹線道路ネットワーク上の橋梁工事及び橋梁修繕工事 （防災幹線道路ネットワークは「鳥取県地域防災計画（鳥取県防災会議作成）」で指定されたルート）

改正後

改正前

別紙2

重要構造物の種類

構造物名
鉄筋コンクリート擁壁
鉄筋コンクリートカルバート類
橋梁上 <u>部工</u>
<u>橋台・橋脚</u>
トンネル
砂防 <u>堰堤</u>
<u>樋門・樋管</u>
<u>水門</u>
<u>堰</u>
<u>排水機場</u>
<u>床止め・床固め</u>
<u>共同溝</u>
<u>ダム工</u>
その他発注者が指定した構造物
なお、プレキャスト製品は対象外とする。 <u>(現場打ち鉄筋コンクリートを部分的に組み合わせたプレキャスト製品も含む。)</u>
<u>また、用心鉄筋や補強鉄筋、差筋のみを有するものは、無筋コンクリートとして取り扱う。</u>

参考

監督体制一覧表

注) 重要なもの及び軽易なもの判断は、総括監督員が行う。
準監督員は、一般監督業務のうち、第6条の表中「準監督員」欄の該当する業務を行う。
契約担当職員とは、所長を示す。

別紙2

重要構造物の種類

構造物名
<u>H=5m以上の鉄筋コンクリート擁壁</u>
<u>H=3m以上の無筋コンクリート擁壁</u>
<u>内空断面積2.5㎡以上の鉄筋コンクリートカルバート類</u>
橋梁上・ <u>下部工</u>
トンネル
<u>H=1.5m以上の砂防ダム</u>
<u>H=3m以上の堰・水門・樋門</u>
その他発注者が指定した構造物
なお、プレキャスト製品は対象外とする。

参考

監督体制一覧表

注) 重要なもの及び軽易なもの判断は、総括監督員が行う。
準監督員は、一般監督業務のうち、第5条の表中「準監督員」欄の該当する業務を行う。
契約担当職員とは、所長を示す。